

ベラルーシ公開情報取りまとめ

(1月24日～1月30日)

2022年3月2日
在ベラルーシ大使館

【主な出来事】

●ルカシェンコ大統領、国民と議会に対する教書演説を実施(1/28)

【ルカシェンコ大統領動静】

●検事総長による報告

・法執行部門の活動成果、犯罪状況の指数、過激主義活動に関する刑事事件の捜査、大祖国戦争時のベラルーシ国民へのジェノサイドの事実の解明につき協議。

・シヴェド検事総長は大統領に、2021年に1,200人以上の過激主義傾向の人物に対する刑事事件が立件された旨報告。

(1/24 大統領府)

●国境警備に関する会議

大統領は要旨以下を述べた。

・ベラルーシ当局はどんな戦争も必要としていないが、米国がポーランド、ラトビア及び自らの手で戦争を押し進めている。ベラルーシは地域の安全保障のドナー国として常に評価されている。

・なぜ、西側諸国は2020年に我々を突き押し、その後も侵略しようとしているのか。現在、西側こそが我々を脅しているのだ。

(1/24 大統領府、BPN)

●国立科学アカデミーでの会合

大統領は要旨以下を述べた。

・来るベラルーシ・ロシア両国共同軍事演習「同盟の決意 2022」は、両国の力を示すもの。我々は必要であれば、自らを守るつもりである。

・我々が情勢を煽っており、この戦争が必要だと考えないでほしい。我々に戦争は不要である。しかし、万が一に備えて準備しておかなければならず、軍隊も同様である。

・西側諸国はベラルーシの成功をねたみ、不適切に

行動している。

・ベラルーシは制裁にもかかわらず多くのことを達成した。このことを誇らねばならない。

・科学及び産業にとっての戦略的課題の一つは、技術を創造し、幅広く導入すること。

・学者の活動及び行動が国家の利益と合致することが重要であり、我々の成功はベラルーシの国家安全保障の要因の一つである。

(1/25 大統領府)

●国民と議会に向けた教書演説

大統領は要旨以下を述べた。

・ロシアがベラルーシを吸収することはない。2つの独立した主権国家を併存させつつ、両国は、あらゆる単一国家が羨むようなシステムを構築する。

・ベラルーシは西側諸国との関係修復に関心あり。ただし、西側が本当の意味で、民主的に協力するつもりであり、ベラルーシの主権を損なわず、ロシアとの関係断絶を迫ったりしない場合に限られる。

・建設的な社会団体には、外国から資金提供を受けていた反政府団体が占めていた隙間を埋めるよう期待。現体制に反対する立場の人物が一定数いることを考慮し、適切に対処する。

・全ベラルーシ国民会議は、他の権力主体の権限と干渉しない権限を有する。

・戦争が生じるのは、①ベラルーシに対する直接的な侵攻・武力攻撃が行われる場合、及び②我々の同盟国であるロシア及び同国領への直接攻撃が行われる場合の2つに限られる。

・ベラルーシ西部における移民の状況は、ライアンエア機的一件に続くベラルーシに対するハイブリッド攻撃に過ぎない。西側諸国による東洋での蛮行が西

側諸国自身に跳ね返ってきている。ベラルーシは、移民に一時居留施設を提供し、食料や防寒具を供給する等して、本当の人間性を世界に示している。

(1/28 大統領府)

【外交】

●ポーランドは、2020年8月以降、ベラルーシから約15,000人の政治亡命者を受け入れ。

(1/24 Zerkalo)

●ベラルーシ・ロシア連合国家共通通貨に関するドミトリー・コズロフ露国家安全保障会議副議長の発言

同副議長は、共通通貨の可能性は、両国の経済統合がある程度の段階に至った上で生じるものであり、本件につき先走ってはならない旨述べた。

(1/28 露タス通信、Zerkalo)

●メディアに関するベラルーシ・ロシア両国外務省間協議

・両国は、ロシア系新聞社「ベラルーシの『コムソモリスカヤ・プラウダ』」の閉鎖の問題につき協議。

・ベラルーシ側は、今ではあらゆるロシアメディアの拠点開設を認める用意があるとした上で、その拠点で働く職員はロシア国民に限る旨表明。

(1/28 Zerkalo)

【内政】

●憲法改正の国民投票に向けた動き

(1) 中央選挙管理委員会発表(1/26)

・地区選挙委員は合計1,857人。そのうち政党から89人、社会団体から964人、一般公募が636人、国営企業から122人。

・野党や政権と距離を置く社会団体からの応募者は1人も採用されず。

・期日前投票は、2月22日(火)から26日(土)まで実施予定。

・投票所の記入台入り口のカーテンを、COVID-19感染拡大防止の観点から使用しないよう指示。同時に、投票の秘密も確保。

(2) 人権団体が国民投票前の情勢を分析

・「ベラルーシ・ヘルシンキ委員会」及び「ヴァスナ(春)」は、憲法改正の国民投票に向けた情勢の報告書を公表。両団体は、今次国民投票が2020年大統領選挙後の危機的状況、政権と異なる立場の人々に対する圧制、ロシア・ウクライナ間の武力紛争勃発の危険、ベラルーシ・ロシア両国共同の大規模軍事演習という緊迫した情勢下で行われるとした上で、ベラルーシ当局がそのような不安要素の払拭に取り組んでおらず、憲法改正案も実質的な変化をもたらす内容ではないと分析。

(1/26、27 Zerkalo)

●当局から民間の団体・一般市民に対する強制捜査・逮捕等

1/24

・「在ベラルーシ・ポーランド人連盟」(当局は未公認)のサイトが閉鎖。

・「3%」というステッカーを貼った車を運転していた男性が逮捕される。「3%」は、2020年大統領選挙前の時期のあるオンライン世論調査におけるルカシェンコ大統領の支持率とされる数字。

・レベチコ「統一市民党」元党首が刑事告訴される。同氏は国外逃亡中。

1/25

・大統領府機関紙の元記者が運営するPRスタジオに家宅捜索。

1/26

・社会団体「モギリョフ権利擁護センター」に家宅捜索。代表が拘束される。

・ゴメリで24歳の男性が、過激主義に指定されたSNSに、1年半前の抗議行動の時期にコメントしていたために拘束される。

・フィラノヴィチ弁護士が資格を剥奪される。同氏は、ライアンエア機強制着陸事件の際に拘束されたロシア国籍のサペガ氏(同時に拘束された反体制活動家プロタセヴィチ氏の交際相手)の弁護に立っていた。

・親政権系Telegramチャンネルは、ミュージシャンのヤルモレンコ氏が交際相手とともに、2020年の抗議

行動への参加を謝罪しているとされる動画を公開。

1/27

・内務省は、ベラルーシ語新聞「我らの家(ナシャ・ニヴァ)」を過激主義に認定。

1/28

・当局はロシア国籍の女性を、2020年8月の大統領選後の抗議行動に参加した廉で拘束。この女性は、ロシア系新聞「ベラルーシの『コムソモリスカヤ・プラウダ』」が一面で報じていた抗議行動の記事の写真に写っていた。

・グロドノ州ノヴォグルドク地区で、男性に3年の自由剥奪刑。理由は、当局に過激主義指定されたSNSアカウントへのコメント。男性は、当該アカウントが過激主義指定される以前から拘束されていた。

・国家統制委員会(KGK)経済捜査局は、ラトウシコ元文化大臣の娘のヤナ氏を刑事告訴し、ヤナ氏のアパートを差し押さえる。

(1/23~1/30 BPN、Zerkalo)

【治安・軍事】

●ベラルーシ・ロシア両国共同軍事演習「同盟の決意 2022」を巡る動き

・1/25、プライス米国務省報道官は、ベラルーシがウクライナ侵攻のために自国の空域を提供する場合、北大西洋条約機構(NATO)加盟国は迅速かつ決然たる対抗措置を講じるとした上で、そのような場合、ベラルーシ国境付近におけるNATO加盟国軍の兵力増強もあり得る旨警告。

・1/27、グレヴィチ国防第一次官兼参謀総長(少将)は、ミンスク駐在各国武官を対象にブリーフィングを開催。本演習はすぐれて防衛的な演習である旨強調。

(1/27 国防省、BPN、Zerkalo)

●ベラルーシから周辺国への不法移民

(1)1月24日~1月30日の動向

・ラトビア国境警備隊は、不法越境を試みた30人~42人を阻止。2021年8月10日にベラルーシとの国境地帯に非常事態が発令された後に不法越境を阻止された人数は合計4,741人。

・リトアニア内務省国境警備局は、不法越境を試みた4人~19人を阻止。2021年8月にベラルーシとの国境地帯に非常事態が発令された後に不法越境を阻止された人数は合計8,168人。

・ポーランド国境警備局は、不法越境を試みた16人~68人を阻止。また、不法移民及びベラルーシ当局者からポーランド当局に対し、投石等あり。

(2)ポーランドがベラルーシとの国境沿いにフェンスの建設を開始(1/25)

・ミカルスキ・ポーランド国境警備局報道官によれば、本年6月には全長186km、有刺鉄線・カメラ・人感センサーを備えたフェンスが完成予定(ベラルーシとの国境の全長は398km)。

(3)ベラルーシ側の動き

・1/25、ラッポ国家国境委員会委員長は国営TV「ベラルーシ第1チャンネル」の番組で、ポーランド治安当局によるベラルーシ国家国境委員会職員の拘束計画につき発言。同番組はポーランド側からの銃撃、ベラルーシ領への侵入事件等もクローズアップ。

・1/29、ベラルーシに逃亡したチェチコ元ポーランド軍二等兵は露メディア「ロシア・トゥデイ」に、ポーランド軍による移民及びボランティアの大量殺害につき国際司法裁判所に提訴を行った旨述べた動画を投稿。

(1/24~30 BPN、Zerkalo)

●陸軍中佐に国家反逆罪での懲役判決

・ミンスク市裁判所は、ドミトリー・サムソフ国防省諜報総局陸軍中佐に禁錮19年の刑を宣告。同氏は「国家への反逆」、「勤務上の秘密の意図的な漏洩」、「違法行為による資金の合法化」の3つの罪で起訴されていた。

・同氏は2020年秋に拘束されるまで国防省軍事諜報総局で勤務していた。また、国家保安委員会(KGB)が入手した資料へのアクセス権を有する秘密部署15738でも勤務経験あり。

(1/26 人権団体「ヴァスナ(春)」、Zerkalo)

【経済】

●1月1日現在の国家債務残高

- ・国家債務総額は583億ルーブル(約233億ドル)で、前年同期比5億ルーブル(0.9%)増。
 - ・対外債務総額は182億ドルで、前年同期比4億ドル(1.9%)増。
 - ・2021年には国外市場で12億7,310万ドル相当額を借り入れ、16億900万ドル相当額を償還。
 - ・国内債務総額は118億ルーブル(約47億ドル)で、前年同期比20億ルーブル(19.9%)増。
 - ・2021年には国内市場で12億3,780万ドル相当額及び1億9,100万ルーブル(約7,600万ドル)を借り入れ、3億3,310万ドル相当額及び1億4,500万ルーブル(約5,800万ドル)を償還。
- (1/25 財務省)

●2021年12月の平均月収

- ・2021年12月の全国平均月収は1675.30ルーブル(約75,000円)で、前年同期比2.7%増。
 - ・地域別平均は以下のとおり。
- | | |
|---------|--------------|
| ブレスト州 | 1,459.50ルーブル |
| ヴィテプスク州 | 1,354.00ルーブル |
| ゴメリ州 | 1,475.80ルーブル |
| グロドノ州 | 1,423.10ルーブル |
| ミンスク州 | 1,711.90ルーブル |
| モギリョフ州 | 1,286.80ルーブル |
| ミンスク市 | 2,404.10ルーブル |
- ・業種別平均は、最高がIT部門で6,435.50ルーブル(約29万円)、最低が理容・美容で810.60ルーブル(約36,000円)。
- (1/25 国家統計委員会、BPN)

●年金額の減少

- ・国家統計委員会によれば、2021年の実質年金は、8月、9月を除いて前月比で減少を続けていた。
 - ・2021年12月の平均名目年金は、前年同月比6.6%増の514.40ルーブル(約23,000円)。他方、2021年の年間のインフレ率は10%。
- (1/26 Zerkalo)

●カリ肥料輸出を巡る動き

- ・1/26、リトアニア鉄道は、「ベラルーシ・カリ」のカリ肥料輸送に関する同社関連会社3社からの申請を却下。
 - ・1/28、「ベラルーシ・カリ」は、リトアニア鉄道との契約破棄に関し、裁判所を通じて異議申し立て。
- (1/26、28 Zerkalo)

●高価格帯のたばこの一部銘柄が、対ベラルーシ制裁に伴う原材料不足のため品薄に。

(1/28 Zerkalo)

【抵抗勢力の動き】

●チハノフスカヤ民主勢力代表の活動

- (1) 国際民間航空機関(ICAO)理事会議長への書簡の送付(1/27)
 - ・1/31に開催予定のライアンエア機強制着陸事件に関する理事会会合において、本件報告書の国連安保理議長への送付に賛同するよう申し入れ。
 - (2) オライリー・ライアンエアCEOとの電話会談(1/29)
 - ・オライリーCEOは、ライアンエア機強制着陸事件の審理の開始及び同事件でベラルーシ当局に拘束された反体制派プロタセヴィチ氏と同氏の交際相手であったサペガ氏の解放を支援する旨表明し、ライアンエア社が新しいベラルーシへ航空便を就航させることを望んでいる旨付言。
- (1/27、29 チハノフスカヤ氏公式ホームページ)

【その他】

●米国がベラルーシ渡航中止を勧告

- ウクライナ国境付近でのロシア軍の増強に伴い、ベラルーシ・ウクライナ国境においても緊張が高まっているため。
- (1/24 在ベラルーシ米国大使館、BPN)

●腐敗認識指数(CPI)で19位ダウン

- 国際的な非政府組織(NGO)トランスペアレンシー・インターナショナルが毎年発表している「腐敗認識指数(Corruption Perception Index)」2021年版において、

ベラルーシは 82 位。前年の 63 位から 19 ポイント減。
(1/25 BPN、Zerkalo)

●**独製薬企業 Queisser Pharma は、ベラルーシ国営メディアに対する広告を停止。**

(1/26 BPN、Zerkalo)

●**国営企業・インフラ等での問題**

・1/27、モギリョフ市のガソリンスタンドで、敷地内に停車中のトラックに積んであったガスボンベが爆発。消防隊により無事鎮火。スタンドの設備への延焼や人的被害なし。

・1/29 未明、国営「モズィリ製油所」(ゴメリ州モズィリ地区)にて火災発生。消防隊が急行し、鎮火。

(1/27、29 Zerkalo)

●**リトアニア税関、軍事・諜報用サーバーのベラルーシ入国を阻止**

・リトアニア税関は、暗号化のために利用可能な情報システムを搭載したサーバー 2 台のベラルーシへの通過を阻止。

・同サーバーは軍民両用品で、軍事・諜報目的にも転用可能であり、欧州連合(EU)の対ベラルーシ制裁対象品に含まれているため。

(1/25 BPN)

●**ベラルーシでの政治犯の数が 1,007 人に。**

(1/27 人権団体「ヴァスナ(春)」、BPN、Zerkalo)

(了)